

巻 頭 言

足利工業大学看護実践教育研究センター看護学研究紀要の創刊にあたって

足利工業大学看護実践教育研究センター

センター長 山門 實

看護学をはじめとする医療における重要課題は、「根拠に基づいた医療」(Evidence-based Medicine、以下EBM)の実践である。このEBMでの根拠の1つには、これまでに発表されている国内のみならず海外での臨床研究報告がある。これらの医療情報に基づいた最新・最善の医療を患者さんに提供することこそがEBMの実践である。また、患者さんからの視点としては、これらの医療的判断とともに、「物語に基づいた医療」(Narrative-based Medicine、以下NBM)、すなわち、患者さんあるいは家族を含めての人生観に基づく、その人なりの人生の物語を充実させる医療、ケアの実践も必要となる。このEBM、NBMとともに重要な根拠は、自分自身の経験からの医療「経験に基づいた医療」(Experience-based Medicine、以下EXBM)である。患者さんに最善の医療情報を提供するには、EBM、NBMとともに自分自身の経験であるEXBMを加味することにより、より説得性のある情報提供となる。

今般、足利短期大学看護学科が足利工業大学看護学部へと改編されることを契機に、本看護学部の紀要が第1巻第1号として創刊されることとなった。この紀要とは、広辞苑では「大学・研究所などで刊行する、研究論文を収載した定期刊行物」と定義されている。すなわち、この紀要こそが自らの経験としての根拠となり、EXBMへの応用となることから、本看護学部としては最も重要な財産となるものである。さらに本紀要は、今後の継続的な刊行とともに、本紀要に掲載された論文が、他学の医療関係者に引用されることが重要であり、この引用数こそが本紀要のimpact factorとして評価の対象となり、その位置付けとなる。したがって本紀要は、本看護学部の集大成となるとともに、本看護学部を世に問う資料となるものである。

今後、さらなる高齢化社会となるわが国における医療において、看護学は極めて重要な役割を果たすこととなる。この高齢化社会における人口構成の変化は、人の疾病構成も変化させるとともに、人の疾病に対する観念、さらには死についての観念も変化させる。医療は、前記したようにEBM、NBM、EXBMとともに進歩する医療技術の集大成であり、この医療の根本には、人の心を含んだ人間としての医療文化がある。本学の理念には「和を以って貴しとなす」のあること、また、仏教精神に基づく教育のあることから、人の心を含む医療の提供を目指す看護学部となることが期待される。

看護学については浅学の身である私ではあるが、これまでの医療人としての経験に基づき、プロフェッショナルオートノミーを重視しての本看護学部の創設とともに、その進化に尽力したいと考えている。本紀要が、本学関係者のみならず、わが国の医療人の必読書となることを切に願うものである。